

Application for Participation

Associated Schools Project (ASP) for Promoting International Education

「心も元気 体も元気」

— 健やかな心とからだづくりに進んで取り組む下地っ子 —

Description of the Project (プロジェクトの概説)

持続可能な社会の基盤は、一人一人の良好な生活や健康が保証・維持・増進されることである。本校は、これまでも、30年余の歴史をもつ「豊川横断水泳大会」の行事を中核に置き、泳力を中心とした体力づくり、歯や心の健康づくりを中心にした保健指導に力を入れてきた。さらに、ESDを通して付けたい力として、主体的に行動する実践的な態度、自然に対する豊かな感受性や生命を尊重する精神、環境に対する関心などの資質・能力を地域とのつながりの中で高めていくことを目指して取り組んでいる。本校のすぐ近くには、1級河川の豊川が流れている。また、校庭には、130年以上にもわたり子どもたちを見守り続けている大イチョウの木がそびえている。この川や大イチョウを「地域と子どもたちをつなぐキーワード」として、教育活動全般で「心身の健康状態や健康向上のための具体的な方法を知らせて『広げる』・「設定した目標達成に向けて『きたえる』・「他者とかかわり合いながら健やかな心身を『育てる』・「のびのびと生活できる基盤となる安全を『守る』」活動や支援を「大いちょうプラン」として作成した。これらを横断的、段階的に行えば、子どもたちは、将来にわたって自らの健康状態に関心をむけ、課題の改善に向けて目標をもって進んで取り組み、心も体も元気に生活を送ることができると考える。

Objectives of the Project (プロジェクトの目的)

本校では、ESDを「心身の健康増進」の観点から、自らの責任ある行動をもって、持続可能な社会づくりに主体的に参画できる人材を育成することと捉えている。そのために、本校では「大いちょうプラン」として4つのプランを立てて、子どもたちが自ら健康課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に行動できるようにするための活動や学習を進めている。

(1) 広げる活動「健康なからだづくりプラン」

児童や家庭に健康状態や健康向上のための具体的な方法を知らせ、目標を立てる支援をする。

- ・全校児童へのフッ素洗口・学校保健委員会の取り組み・食後の歯磨きや健康チェック
- 食と健康、食の安全、食の生産と消費などについての学習を展開する。
- ・学年の発達段階に応じた栽培活動や食育

(2) きたえる活動「たくましいからだづくりプラン」

目標に向けて自らきたえようとする意欲とたくましい体と心づくりの支援をする。

- ・下地っ子体操　・豊川横断水泳　・チャレンジマラソン　・長縄チャレンジ

(3) 育てる活動「輝く笑顔づくりプラン」

他者とかかわり合いながら心をつなぐ活動で、自他を認め、他者と豊かにかかわり合い、笑顔輝く子どもを育てる。

- ・大イチョウの保護活動および豊川を軸とした地域の人々や他校児童との交流活動
- ・自己肯定感を高めるエクササイズを取り入れた学級活動
- ・心を響きあわせる道徳授業の充実　　・ぎんなん活動（たてわり活動）の活性化

(4) 守る活動「安全安心な学校づくりプラン」

児童の安全に対する意識を高めるとともに、地域ぐるみでの子どもの見守り活動を展開する。

- ・津波想定避難訓練　　・不審者対応避難訓練　　・交通安全教室　　・交通安全推進事業

Execution (プロジェクトの実施)

前述したように、本校では、E S Dを「心身の健康増進」の観点から、自らの責任ある行動をもって、持続可能な社会づくりに主体的に参画できる人材を育成することと捉えている。そのために、児童が自らの健康状態に関心を持ち、健康上の課題を考えるだけでなく、それを改善するために具体的な行動に移すことができる力を育成することが重要であると考えている。

下地校区は、東海道や豊川など交通や水運の要所として栄え、古くからの地域共同体としての営みのある校区であるが、近年、宅地開発による新しい住民の移入も増え、調和を図る努力が必要とされている。国道1号線が校区を分断していたり、整備されない狭く入り組んだ道路があったりと、交通事故や犯罪も心配な地域だが、地域の協力で安全の確保を図っている。こうした環境の中、友達や家族、地域の人など他者と心豊かにかかわりあいながら、自分の心や体の健康状態に関心を持ち、めあてをもって、主体的に健康の向上に取り組むことができる子どもを育てることは、地域保護者の願いでもある。

各学年で、目標を達成するために、学級活動や体育、総合的な学習の時間、生活科、道徳、業前活動等で保健指導、体力づくり、地域学習等と行事を関連づけて活動を進めていく。そのための実践計画として「大いちょうプラン」をE S Dカレンダーに位置づけ実践している。

(1) 大いちょうプラン

健康なからだづくりプラン (広げる)

- ①学校保健委員会での広報活動 (朝食・睡眠)
- ②家庭での生活習慣づくりの応援
 - ・健康チェック
 - ・生活リズムカレンダー
- ③保健学習・食育・栽培活動の充実
- ④全校児童によるフッ素洗口

たくましいからだづくりプラン (きたえる)

- ①チャレンジ豊川横断
 - ・水泳指導の充実
 - ・豊川横断水泳大会
 - ・安全指導と環境教育
- ②チャレンジマラソン・長縄チャレンジ・下地っ子体操

輝く笑顔づくりプラン (育てる)

- ①心にひびく道徳や学級活動の実践
- ②心をつなぎ豊かにする活動
 - ・ぎんなん活動
 - ・大いちょう保護活動
 - ・豊川交流活動
 - ・地域文化交流活動

安全安心な学校づくりプラン (守る)

- ①津波想定避難訓練・交通安全教室
- ②地域ぐるみで子どもの見守り
 - ・学校応援団、住みよい町づくり委員会
 - ・交通立ち番、こども110番の家

(2) E S Dカレンダー (6年生の例)

教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業前業間	← いちちょうタイム・ぎんなんタイム・フッ素洗口 → チャレンジマラソン 長縄チャレンジ											
体育	下地っ子体操		水泳300mトライアル			病気の予防			持久走		縄跳び	
道徳	「豊川をきれいに」 郷土愛			「水泳大会を支える人々」 感謝の気持ち			「大いちょう」 生命への畏敬の念					
学級活動	こんなクラスにしよう		歯の健康		早寝早起き朝ごはん			感謝の気持ちを表そう				
総合他	下地の歴史調べ 街道と水運		豊川横断完泳をめざして 30年をたどる、人々の思い			そばの栽培とそば打ち アレルギーとは		大いちょうの保護 歌づくり				
行事	運動会		地域の人に学ぶ会		豊川横断水泳大会		学芸会		マラソン大会		長縄大会	
	生活チェック		学校保健委員会		生活チェック		学校保健委員会		生活チェック			

(3) 健康なからだづくりプラン（広げる）



3年 保健学習「チェッカーで手の汚れを調べよう」



学校保健委員会での6年児童の発表

(4) たくましいからだづくりプラン（きたえる）



6年 豊川横断水泳大会



(5) 輝く笑顔づくりプラン（育てる）



5年 地域交流学習「手筒花火」



6年 大いちょう再生作業

(6) 安全安心な学校づくりプラン（守る）



津波避難訓練で屋上に避難する児童



地域の方々と旧東海道で交通安全パレード

Type of materials to be used (使用する教材)

- 「小学校 キャリア教育の手引き」 文部科学省 2011
「夢を見つけ夢をかなえる航海ノート」 愛知県教育委員会 2012
「かがやくとよはし」 発行：平成 25 年 4 月 1 日 豊橋市教育委員会
編集：豊橋市立小学校社会科副読本研修委員会
「校区のあゆみ 下地」 発行：平成 18 年 12 月 25 日 豊橋市総代会
編集：下地校区史編集委員会
「郷土誌 下地」 発行：昭和 61 年 2 月 豊橋市立下地小学校
編集：豊橋市立下地小学校郷土誌編集委員会
「水質検査キット twin pH」 堀場製作所
「手洗いチェッカーLED セット」 NITTO KAGAKU CO.,LTD

Is there any type of evaluation to examine the effects of the project on students' comprehension and attitudes? (プロジェクトに対する生徒の理解と姿勢の評価方法)

児童の理解と姿勢の評価は、以下のように行う。

- ・児童の様々な活動への取り組みの成果を事後のまとめや感想、発表から把握する。
- ・学習や活動のまとめとしての授業参観や作品展示会、行事等での成果の発表、意欲や態度を観察し評価する。

上記の評価とともに、さらに下記のことを実施して ESD 活動の更なる充実を図る。

- ・活動や行事後、年度末に行う「教育活動についてのアンケート」調査、PTA 委員会、学校評議員会等から、保護者、地域からの声を集約する。
- ・児童の実態や地域の特色に応じたカリキュラムになるように、ESD カレンダーを見直し、健やかな心とからだづくりに進んで取り組む下地っ子をいくせいするための具体的な活動内容の改善を図る。

On behalf of my institution, I apply for participation in the UNESCO Associated Schools Project and give the assurance that this institution will make an active contribution to the Project, as outlined above, for a minimum period of two years. At the end of every year, I shall submit a report of the Project to the ASP National Co-ordinator of my country.

(本学校を代表して、ユネスコASPの参加申請をし、少なくとも2年間以上上記概要にそってASPに貢献する活動を行うことを確約します。また、毎年ASPコーディネーター(※日本の場合は日本ユネスコ国内委員会)に活動のレポートを提出します。)

21 / Feb. / 2014

Date (日付)

校長,

豊橋市立下地小学校

Principal's name (校長名 (※直筆))

Position, (役職)

Institution's name (学校名)

学 校 概 要

【 校 章 】



1. 学校名

豊橋市立下地小学校

2. 所在地等

〒440-0885 豊橋市下地町字宮前68番地

Tel : (0532) 54-2233 Fax : (0532) 57-1966

<http://www.shimoji-e.toyohashi.ed.jp>

E-mail:shimoji-e@toyohashi.ed.jp

【交通案内】 JR 豊橋駅東口下車 徒歩25分

3. 学校規模

学級数	: 通常学級	12	特別支援学級	2	合計	14学級				
教職員数	: 校長	1	教頭	1	教諭	17	養護教諭	1	非常勤講師	2
	事務職員	1	業務士(用務)	1	業務士(給食)	2	合計	26名		
児童数	: 男子	176名	女子	155名	合計	331名				

4. 本校の教育

(1) 地域の歴史

下地は、鎌倉時代以前より東海道や豊川など交通や水運の要所として栄えてきた。旧東海道沿いには、往時の賑わいを忍ばせる常夜灯や一里塚、芭蕉塚、古い町並みなど多くの史跡が残されている。また、江戸時代には花火の奉納が盛んになり、現在もその技術は明治時代の若者たちが発足させた結社「下地赤心社」



旧東海道沿いの一里塚(下地町4丁目)



下地小学校校庭の大いちょう

に受け継がれている。校庭には、第二次世界大戦の戦火をくぐり抜けた樹齢130年余の「大いちょう」が枝を広げ、豊橋巨木名木百選に選ばれている。こうした歴史や文化的風土を受け、シンセサイザー奏者の喜多郎や洋画家の松井守男画伯など世界で活躍する著名人も輩出している。

近年、国道1号線が校区を分断し、企業の進出や宅地開発など、住環境は大きく変貌しつつあるが、下地に育まれた行事や伝統、共同体のよさを次世代にも受け継いでほしいという願いから、住みよい街づくりに関するさまざまな取り組みを地域、学校が連携して行っている。

(2) 本校の教育目標

「よく考える子 仲よくする子 体をきたえる子」

～知・徳・体の基礎基本を培い、生きる力を育成する～

(3) 目指す子ども像

○進んで勉強する子 深く考える子 自分の考えを話せる子

○思いやりのある子 人にやさしい子 進んで協力する子

○明るく元気な子 進んで運動する子 最後までがんばる子

(4) 経営方針

○教職員間の「和」を大切にし、明るく活気のある学校づくりに努める。

○基礎学力の定着を図り、進んで学習に取り組む児童の育成に努める。

○教師力を高め、学級経営の充実を図るとともに、豊かな心をもち、命を尊ぶ児童の育成に努める。

○学校と家庭、地域との連携を深め、開かれた学校づくりに努める。

(5) 本年度の重点努力目標

学習指導

① 基礎的・基本的な学習の確実な定着を図る。

② あらゆる場面において、「かたる」「かかわる」「かわる」力を身につけた児童の育成を図る。

③ 道徳の授業を重視し、コミュニケーション能力の育成を図る。

生活指導

① あいさつや、返事、言葉づかいなどの基本的な生活習慣を身につけ、正しい判断力のある児童を育てる。

② 子どもとの触れ合いを大切にし、いじめのない温かい雰囲気学級の学級経営に努める。

③ ぎんなん活動や学級活動等の中で、思いやりや助け合い、励まし合える児童を育てる。

健康・安全指導

① めあてをもち、水泳（豊川横断水泳）、チャレンジマラソン、なわとび運動を中心として、体を鍛える児童を育てる。

② 生命を尊び、健康、安全に対する意識をもって行動できる児童を育てる。

③ 健康推進学校として、一層、健康な心と体の育成に努める。

④ 不審者侵入、火災、地震などの緊急時の対応がとれるよう危機管理に努める。

家庭・地域との連携

① 家庭・地域社会との情報交換を密にし、地域の教育力の向上を図り、地域と一体となって児童を育てる。

② 地域からの理解と協力を得るために、学校からの情報発信を積極的に行う。

③ 学校評価を充実し、その結果を教育活動に反映させる。